

摘されている病巣に一致して集積が認められ、¹²³I-IMP 静注 4 時間後の後期像にてその集積が著明となり、視診上黒色を呈していなかったので、乏色素性または無色素黒性色腫が予想された。最終的には免疫組織化学的検査により、乏色素性悪性黒色腫と診断され、本症例においては¹²³I-IMP SPECT 検査が確定診断につながった。鼻腔原発の悪性黒色腫では乏色素性型や無色素性型が多く、本疾患が疑われる場合には、他の画像診断より¹²³I-IMP SPECT が有用であると考えられた。

14. [¹⁸F]fluoro- α -methyl tyrosine (FMT) の腫瘍検出用PET 製剤としての検討

井上登美夫 富吉 勝美 樋口 徹也
都丸 裕美 行広 雅士 青柳 恵子
天野 成子 カリル アーメド
張 宏 遠藤 啓吾 (群馬大・核)

アミノ酸製剤である FMT の腫瘍検出 PET 用製剤としての可能性を検討した。動物実験では、LS 180 (colorectal cancer), RPMI 1788 (lymphoma), MCF 7 (breast cancer) を移植したマウス腫瘍モデルを対象に FMT 腫瘍集積度を FDG と比較した。また、健常志願者および脳腫瘍患者に FMT 187 MBq を静注し経時的な脳 PETイメージングを行った。LS 180 および MCF 7 腫瘍では FMT は FDG より有意に高集積を示した。健常志願者の脳皮質の時間放射能曲線は、FMT 投与直後より急速に上昇し、15 分後から 60 分後までの SUV は 1.5–2.0 であった。前頭葉皮質下 oligodendro-glioma の 1 例では腫瘍部の SUV は 2.8 であり、周囲脳皮質より高い集積を示し、PET で明確に腫瘍を検出することができた。以上の結果から、FMT は腫瘍検出 PET 用製剤として利用可能であることが示唆された。

15. 左室瘤を合併した肥大型心筋症における心筋シンチグラム 3D 画像の有用性

阿久津 靖 渡部 琢也 山田 智広
山中 英之 斎藤 司 下司 映一
嶽山 陽一 伴 良雄 片桐 敬
(昭和大・三内)
篠塚 明 武中 泰樹 (同・放)

心筋シンチグラム three-dimensional display は、虚血心筋領域の部位診断や大きさの評価に有用であるが、今回われわれは、肥大型心筋症症例における左室瘤の診断に 3D 画像が有用であったので報告する。症例は、54 歳男性で心電図上 T 波の陰転を認め、胸痛の精査目的で入院した。心エコー上左室中隔から心尖部にかけての高度の肥大を認め、左室内は二腔に分かれた。左室造影所見上造影剤の心尖部側での腔内停留を認めた。心筋シンチグラム (^{99m}Tc-MIBI) では、心筋の高度の肥大を認めたが、局所の心筋血流の欠損像はなかった。3D 画像では心尖部先端下部で平坦となり、同部位での心筋の圧排像を認めた。これは、左室造影上心尖部先端の造影停留部位と一致し、同部位での心筋欠損と考えられた。MRI のシネモードで内部不均一の血栓を伴う左室瘤と確認された。心筋シンチグラム 3D 画像は、左室心筋の形態の評価に有用であった。

16. ^{99m}Tc-HSAD 心プール SPECT により描出し得た下壁心室瘤の一例

大矢 美貴 山科 昌平 南條 修二
武藤 浩 細井 宏益 山崎 純一
森下 健 (東邦大・一内)

下壁梗塞に伴う心室瘤は比較的稀でかつ、真性と仮性心室瘤の鑑別が困難な症例もある。今回われわれは心室瘤を合併した下壁梗塞症例を経験したので報告する。症例は 39 歳男性。1996 年 2 月 29 日胸痛発作 12 時間後に心カテ施行し、急性下壁梗塞と診断し、direct PTCA を施行し血流再開を得た。peak CPK は 2,951 IU/ml であった。この時の LVG で心室瘤は認められなかった。心筋梗塞発症 1 か月後の心エコーにて心室瘤を認めたため、精査目的にて当院へ入院となった。心エコー、LVG、CAG、CT、MRI、RI